

母塾

2021・9・24

illustrated by kurumi

VOI・61



『たくさん間違えておいで』 いのはなはるこ

「上」という漢字を習ってきた小学一年生の末っ子。
宿題は「上」のつく言葉探し。「上のつく言葉ある？」とお姉ちゃんに訊いています。
今年お嫁に行って、近くに引っ越していった長女が帰ってきていました。

「うわべ」「うわめづかい」「うわてなげ」・・・
ちょっと小1には難しくないかな？と思いつつ横で二人の会話を聞きます。
「うわのそら」・・・「それって上なの？スマホで確かめてよ！」と言うと、
「どんどん間違えていいんだよ。学校は間違えに行くところだよ。
正しいことしか言えないなら学校要らないじゃない。」と長女。

学校も幼稚園もカッコをつけに行く場所ではないのです。
くりかえし、間違えて、笑われて、恥をかいて学ぶ場所のはずです。
いつのまにか、正解をランドセルに入れて行く場所のように思っていました。
長女の言葉にハッとしました。

「どんどん間違えていいんだよ。」と言ってあげていませんでした。
間違えて帰ってきたら、笑い飛ばしてくれる家族がいてくれたら。
今、全部を実験しに行っているのだから、間違えは当たり前だよと
言ってもらえる先生やおともだちがいたら。
子どもたちはもっとのびのびと間違えられるのではないのでしょうか。

私たち大人も、全員、実験中なのです。
正解かどうか？は誰もわからない毎日の仕事・子育て：
たぶん、間違いだらけの私の毎日。
「ママもまだまだ実験中だから！」と開き直っても、子どもたちは
「ママにそんなに期待していませんから」というような顔をしていています。

harukoinohana1717@gmail.com

感想などいただけたら嬉しいです。